

## 《原発性免疫不全症合併自己免疫性 1 型糖尿病患者膵の免疫組織化学的検討》

(1) 対象:大阪大学医学部附属病院糖尿病・内分泌・代謝内科、消化器外科において、原発性免疫不全症合併自己免疫性 1 型糖尿病と診断され、併発疾患のため当院消化器外科にて膵切除術を受け、生体試料の保存に同意頂いた患者。陰性対照として、2009 年 1 月 16 日から 2013 年 3 月 31 日までの間に当院消化器外科にて包括同意を得た膵癌、膵管内乳頭状粘液産生腫瘍、胆管癌、Vater 乳頭部癌、漿液性嚢胞腺腫と診断され、75g 経口ブドウ糖負荷試験で正常耐糖能であった膵切除患者を対象とする。

(2) 研究機関名:大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学

(3) 目的・意義:自己免疫性 1 型糖尿病は、自己の膵  $\beta$  細胞に対して自己免疫学的機序により傷害が起こり、 $\beta$  細胞量が絶対的に減少して発症する糖尿病です。一方、原発性免疫不全症候群は、先天的に免疫系のいずれかの部分に欠陥がある疾患の総称であり、障害される免疫担当細胞(たとえば、好中球、T 細胞、B 細胞)などの種類や部位により 300 近くの疾患に分類されます。原発性免疫不全症候群で問題となるのは、感染に対する抵抗力の低下ですが、免疫機能の低下があることから自己免疫疾患の合併は起こりにくいと考えられます。原発性免疫不全症に自己免疫 1 型糖尿病を合併することは非常に稀少であり、膵組織を免疫組織化学的に解析することで、自己免疫 1 型糖尿病の病態解明につながる事が期待されます。

(4) 方法:年齢・性別・背景疾患・採血/画像所見・前治療に関する情報、手術時の組織学的診断などに関する情報を診療記録で収集します。当院消化器外科にて保存されているパラフィン固定あるいは凍結保存された膵切除検体を薄切し、HE 染色にて形態学的変化を検討し、免疫応答に関連するリンパ球・蛋白質を免疫組織染色にて解析する後ろ向き研究(研究代表者:小澤純二)です。2022 年 3 月まで施行予定です。

(5) 個人情報の取り扱い

研究対象者のプライバシーは厳重に守られ、また、その他人権に関わる事項についても十分な配慮がなされます。本研究の登録の際には氏名やカルテ番号等の個人情報の匿名化を行うため、研究対象者の名前や個人情報が特定・公開されることはありません。収集した臨床情報に関しては、個人情報の保護に細心の注意を払い、情報の漏洩、紛失、転記、不正な複写などがないように研究を実施します。

(6) 問い合わせ先

大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学

TEL:06-6879-3736 受付時間:9:00~17:00(祝祭土日・年末年始は除く)

(8) 研究対象者に研究への参加を拒否する権利を与える方法

本研究への情報提供を拒否される方は遠慮なく上記問い合わせ先まで申し出て下さい。